

【プレゼンテーション資料】

2013年度中間期連結業績および ソニー生命の2013年9月末MCEV

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2013年11月15日

- 2013年度中間期連結業績 P.3
- 2013年度連結業績予想 P.30
- ソニー生命の2013年9月末MCEVおよび
経済価値ベースのリスク量 P.32
- 参考情報 P.35

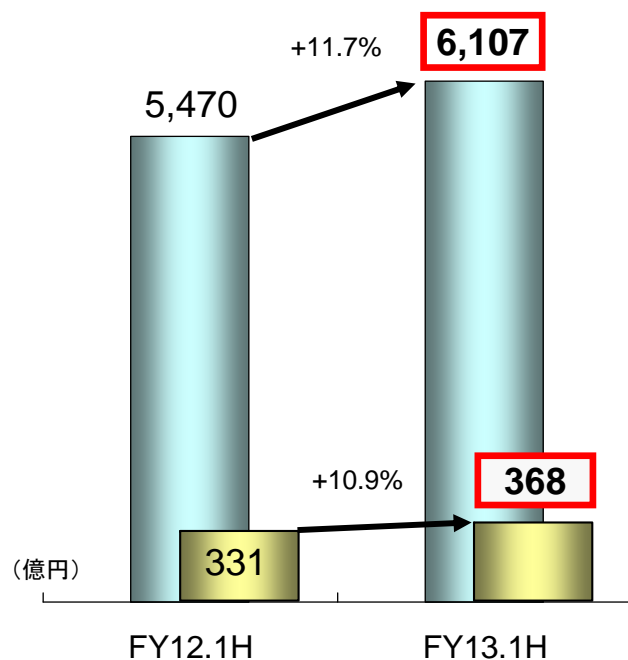
免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。当社グループはいずれもそのような見直しの義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

2013年度中間期連結業績

連結業績ハイライト①

■ 連結経常収益 ■ 連結経常利益



		(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
生命保険事業	経常収益		4,890	5,492	+601	+12.3%
	経常利益		307	302	△5	△1.7%
損害保険事業	経常収益		423	449	+25	+6.0%
	経常利益		4	28	+24	+519.9%
銀行事業	経常収益		168	179	+11	+6.9%
	経常利益		18	35	+17	+90.4%
セグメント間の 内部経常収益・ 利益(※)	経常収益		△12	△13	△1	—
	経常利益		0	1	+0	+44.0%
グループ連結	経常収益		5,470	6,107	+637	+11.7%
	経常利益		331	368	+36	+10.9%
	中間純利益		197	208	+11	+5.9%

(※) 主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益。

		(億円)	13.3末	13.9末	前年度末比	
グループ連結	総資産		80,961	83,613	+2,652	+3.3%
	純資産		4,354	4,380	+26	+0.6%

(注) 包括利益: FY12.1H ……320億円、FY13.1H ……135億円

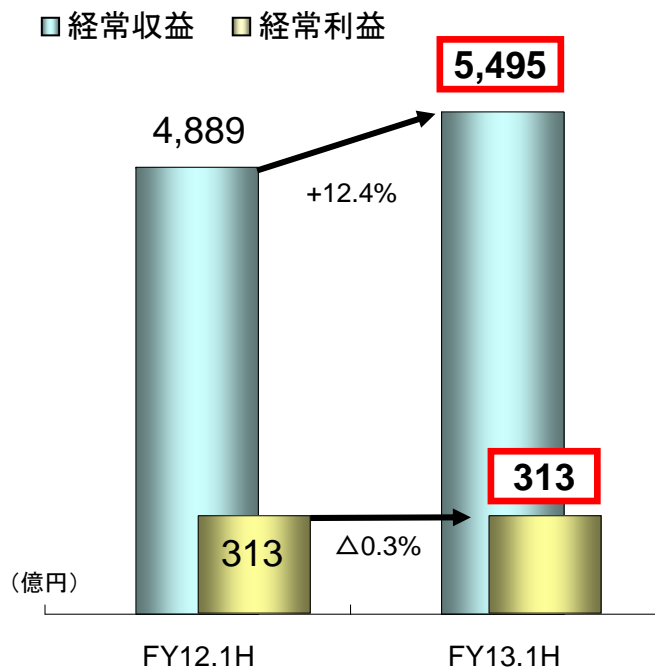
※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

<前年同期比分析>

- 生命保険事業: 保険料率改定の影響により一時払保険料などが減少したものの、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入は増加。資産運用収益は市況回復にともない特別勘定の資産運用損益が改善したことにより増加。その結果、経常収益は主に資産運用収益の増加により、前年同期に比べ増収。経常利益は、標準利率改定の影響により責任準備金繰入額が増加した一方で、逆ざやの解消や変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少などにより、前年同期比ほぼ横ばい。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増収。経常利益は、自動車保険の料率改定や新ノンフリート等級制度導入による事故率の低下などにより損害率が低下したことに加え、事業費率が低下したこともあり、前年同期に比べ増益。
- 銀行事業: 顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したこと、および住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加したことにより、経常収益は増収。経常利益は、債券関連取引等にかかる損益が改善したこともあり、前年同期に比べ増益。
- 連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業で増加し、前年同期比11.7%増の6,107億円。経常利益は、生命保険事業においてはほぼ横ばいとなったものの、損害保険事業および銀行事業において増加し、10.9%増の368億円。中間純利益は、5.9%増の208億円。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- ◆ 前年同期比 経常収益は、増収。経常利益は、ほぼ横ばい。
- ◆ 保険料等収入は、保険料率改定の影響により一時払保険料などが減少したものの、保有契約高の堅調な推移により、増加。
- ◆ 資産運用収益は、市況回復による特別勘定資産運用損益の改善などにより、増加。
- ◆ 経常利益は、標準利率改定の影響により責任準備金繰入額が増加した一方で、逆ざやの解消や変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少などにより、前年同期比ほぼ横ばい。

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
経常収益	4,889	5,495	+605	+12.4%
保険料等収入	4,288	4,379	+91	+2.1%
資産運用収益	560	1,076	+516	+92.3%
うち利息及び配当金等収入	521	589	+67	+13.0%
うち金銭の信託運用益	26	26	+0	+2.0%
うち有価証券売却益	11	0	△11	△99.9%
特別勘定資産運用益	—	458	+458	—
経常費用	4,575	5,182	+606	+13.3%
保険金等支払金	1,353	1,550	+197	+14.6%
責任準備金等繰入額	2,420	2,940	+519	+21.5%
資産運用費用	187	40	△146	△78.2%
うち特別勘定資産運用損	135	—	△135	△100.0%
事業費	536	558	+22	+4.1%
経常利益	313	313	△0	△0.3%
中間純利益	184	176	△7	△3.8%

(億円)	13.3末	13.9末	前年度末比	
有価証券残高	52,115	55,647	+3,531	+6.8%
責任準備金残高	54,729	57,668	+2,939	+5.4%
純資産額	3,423	3,411	△11	△0.3%
その他有価証券評価差額金	802	725	△76	△9.6%
総資産額	59,527	62,474	+2,947	+5.0%
特別勘定資産	5,506	6,015	+509	+9.3%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命 主要業績指標(単体)

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	増減率
新契約高	20,139	18,748	△6.9%
解約・失効高	9,561	8,764	△8.3%
解約・失効率	2.65%	2.32%	△0.33pt
保有契約高	367,068	383,571	+4.5%
新契約年換算保険料	321	301	△6.2%
うち第三分野	81	69	△14.5%
保有契約年換算保険料	6,485	6,814	+5.1%
うち第三分野	1,531	1,650	+7.8%

＜主な増減要因＞

◆ 主に家族収入保険が減少。さらに保険料率改定の影響により積立利率変動型終身保険なども減少。

◆ 定期保険を中心に低下。

◆ 保険料率改定の影響により減少。特に、学資保険、積立利率変動型終身保険などが減少。第三分野では、一時払終身介護保険が減少。

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	増減率
資産運用損益(一般勘定)	507	577	+13.7%
基礎利益	333	335	+0.8%
逆ざや額(△)	△4	33	—

◆ 標準利率改定の影響により責任準備金繰入額が増加した一方で、逆ざやの解消や変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少などにより、ほぼ横ばい。

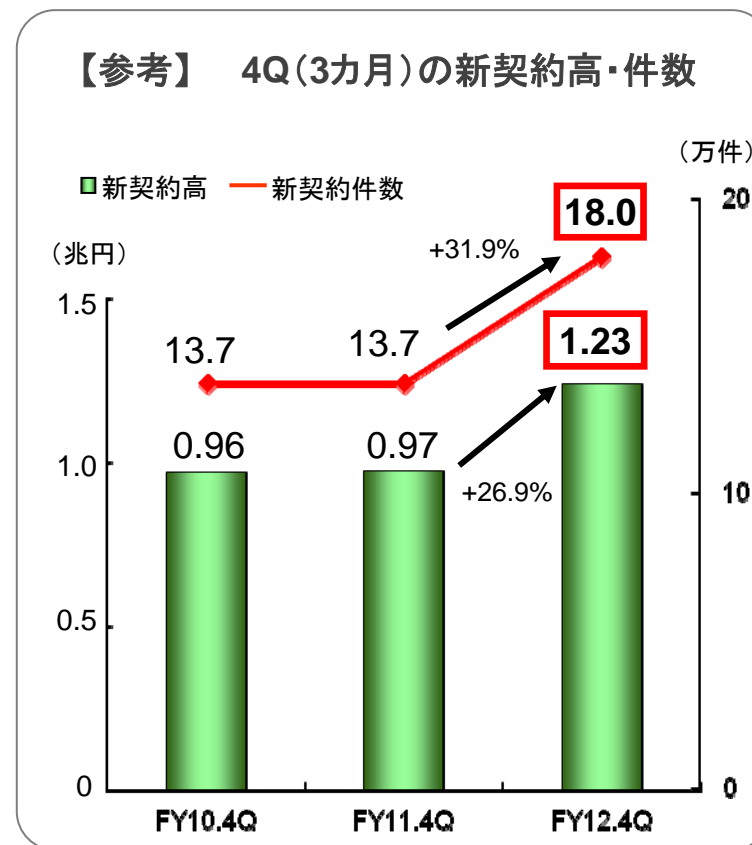
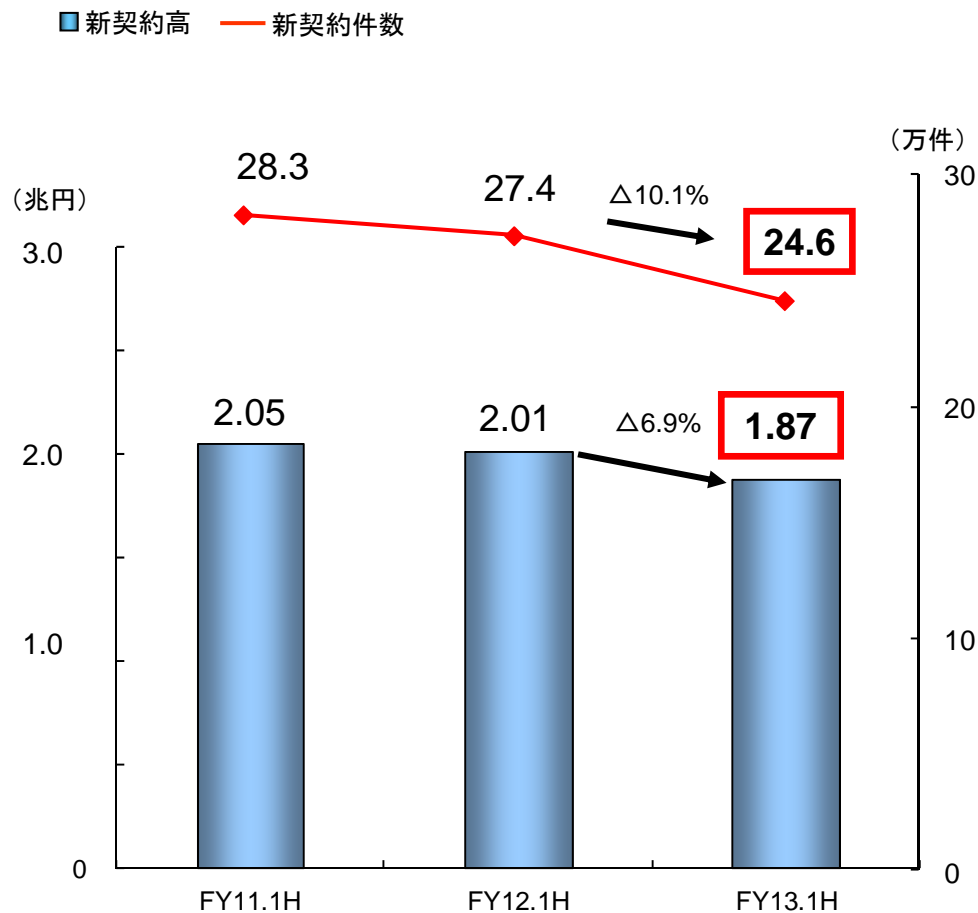
(注) 逆ざや額のプラスは順ざや額を表します。

	13.3末	13.9末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	2,281.8%	2,325.0%	+43.2pt

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)①

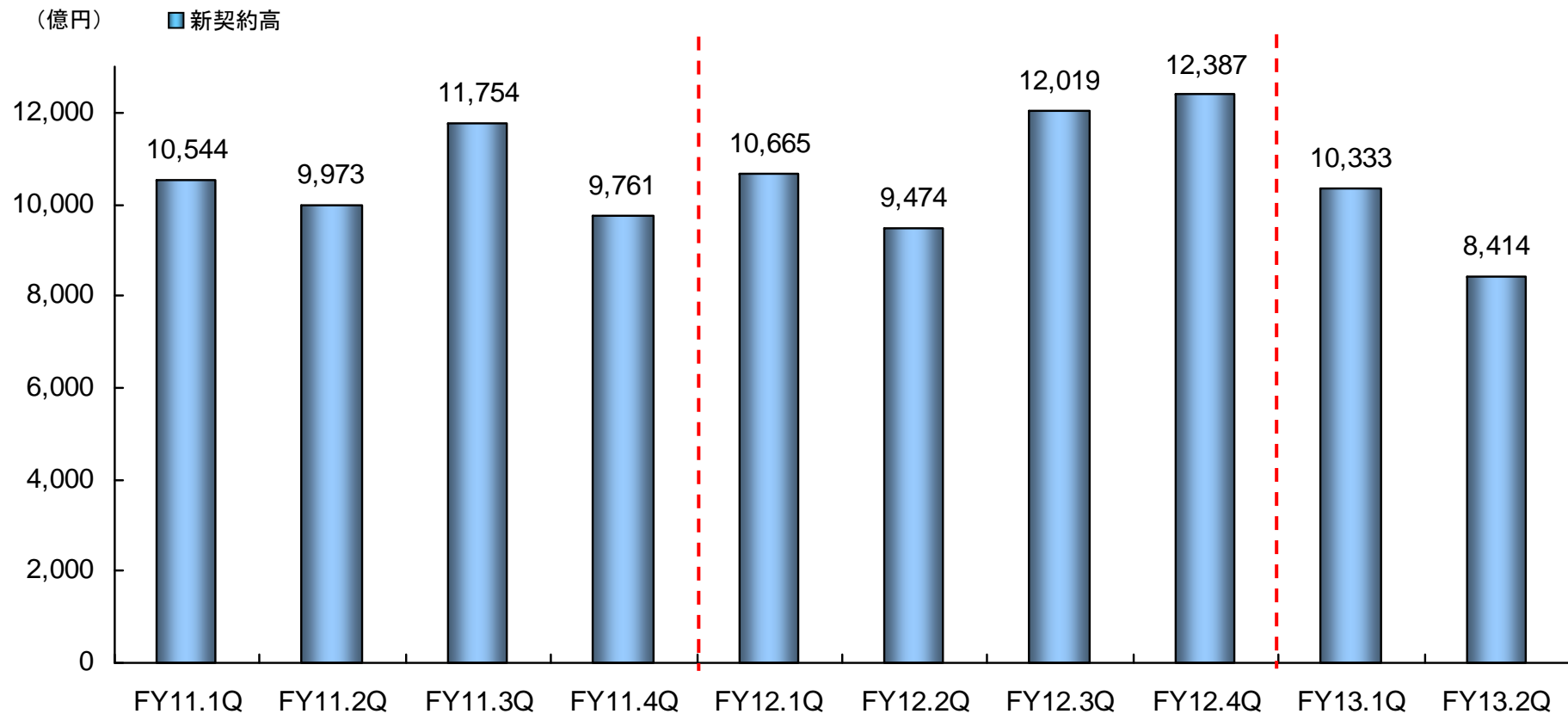
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



※新契約高は百億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)②

新契約高の四半期(3ヶ月)ごとの推移

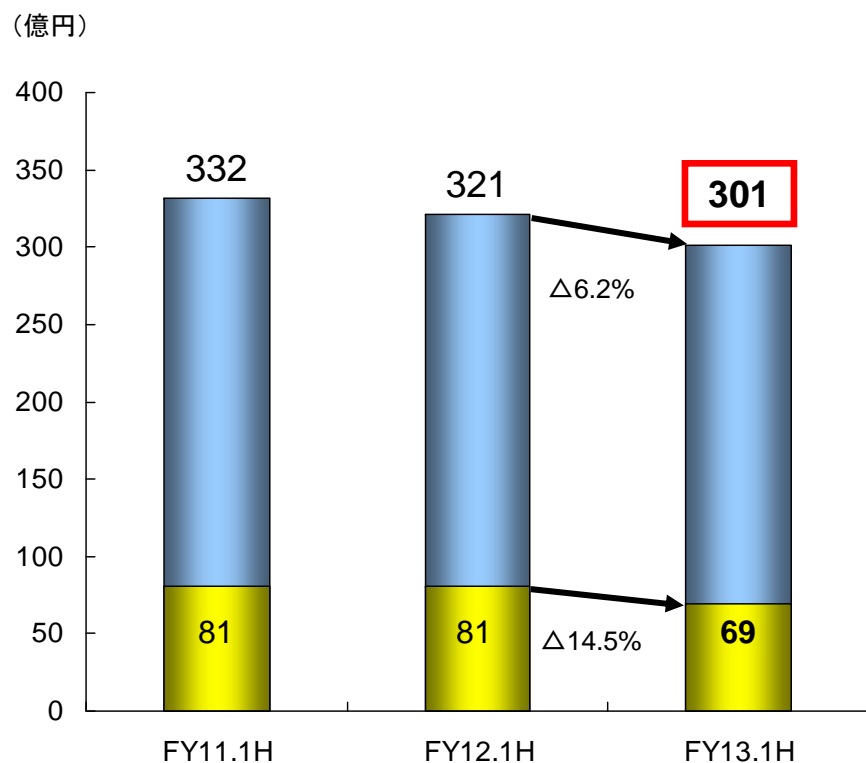


※金額は億円未満切捨てで表示

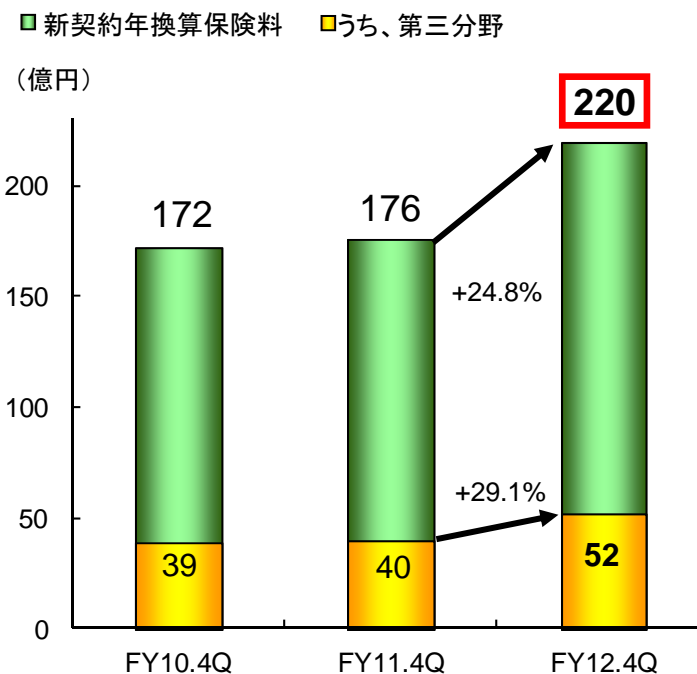
ソニー生命の業績(単体)③

新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



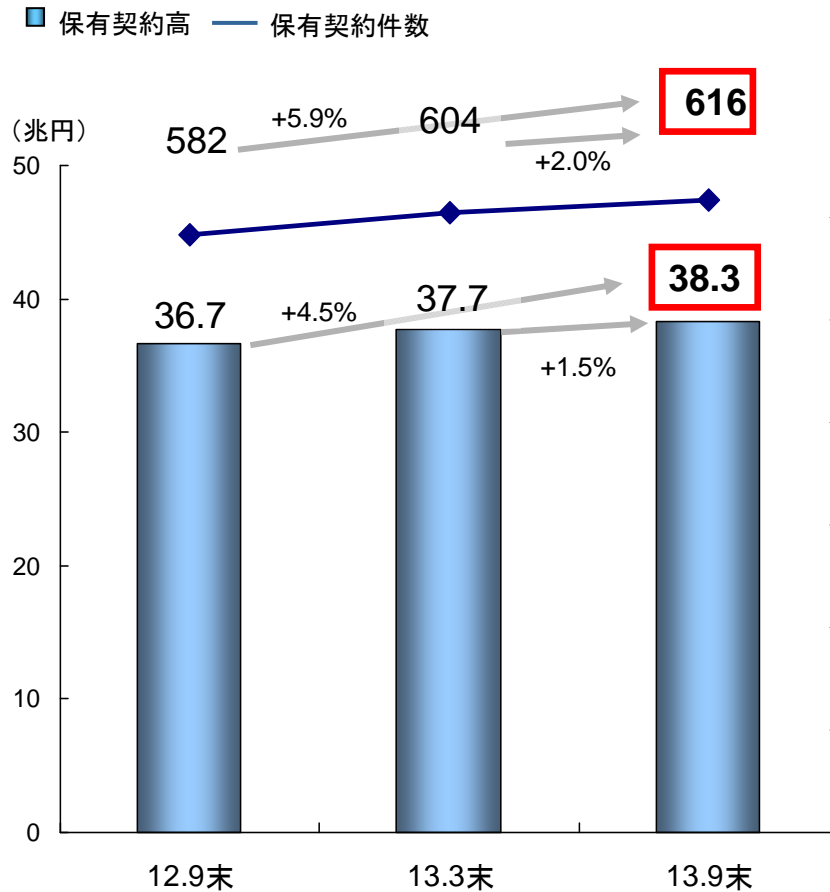
【参考】 4Q(3カ月)の新契約年換算保険料



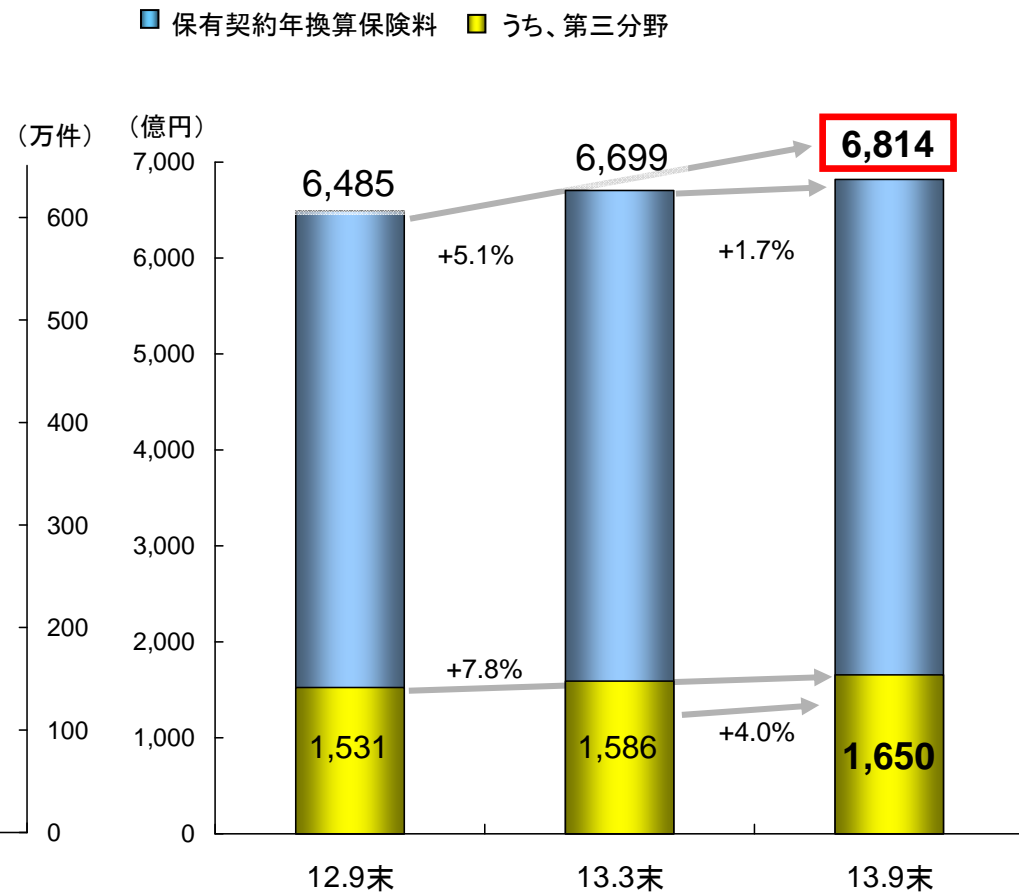
※新契約年換算保険料は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)④

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



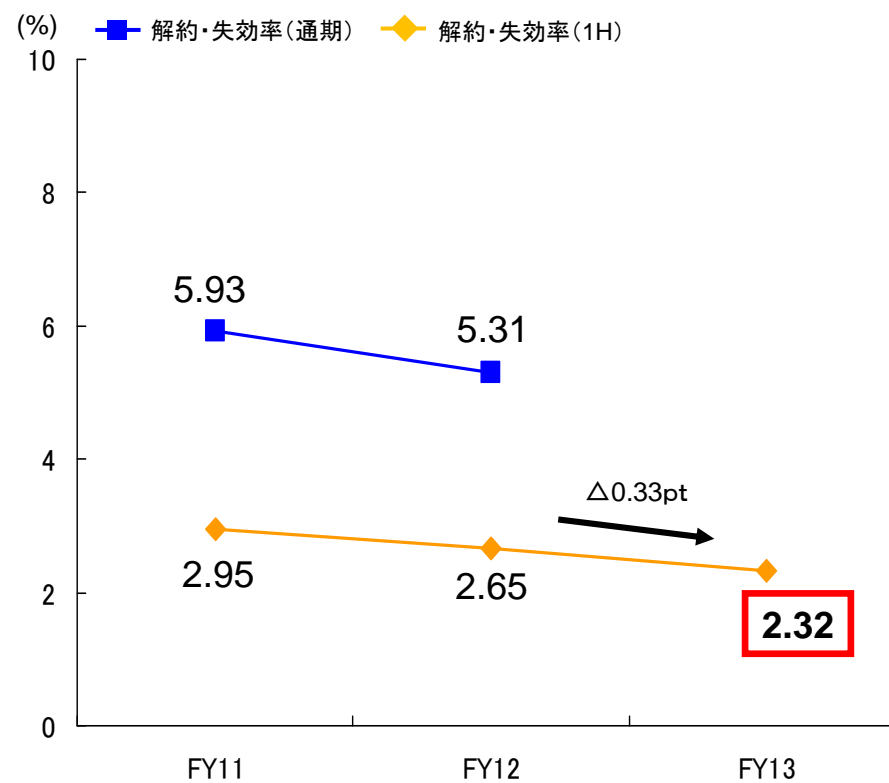
保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

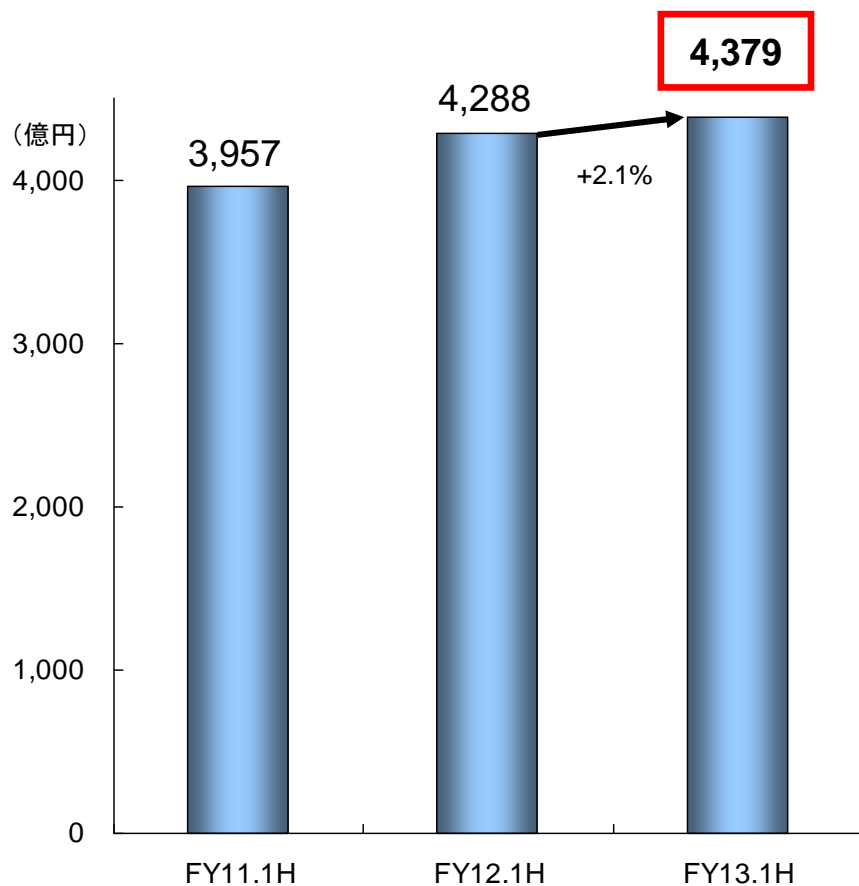
解約・失効率* (個人保険+個人年金保険)

*解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率

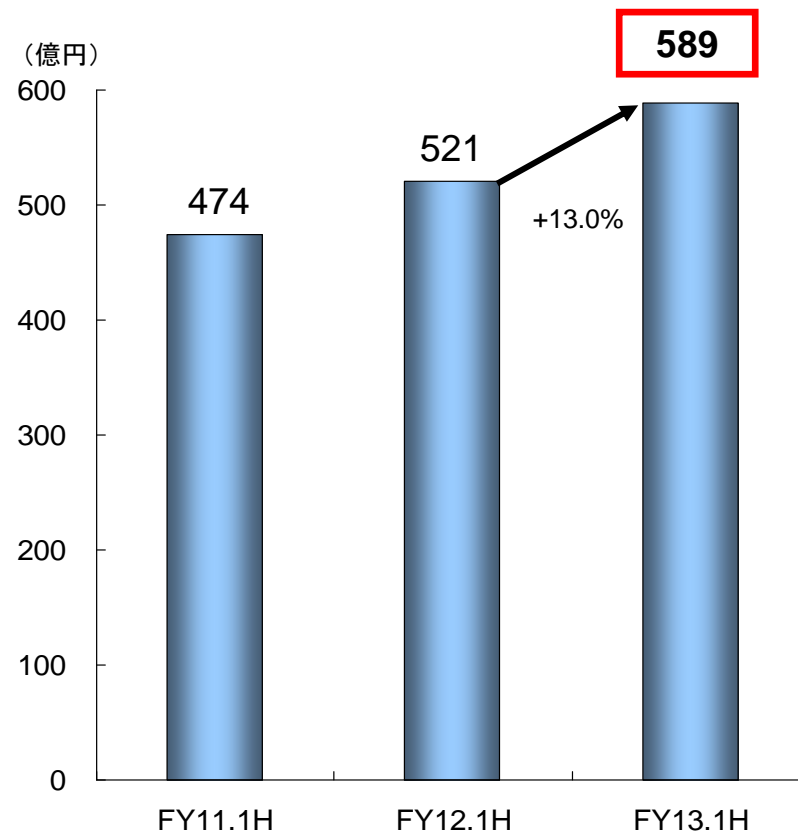


ソニー生命の業績(単体)⑥

保険料等収入



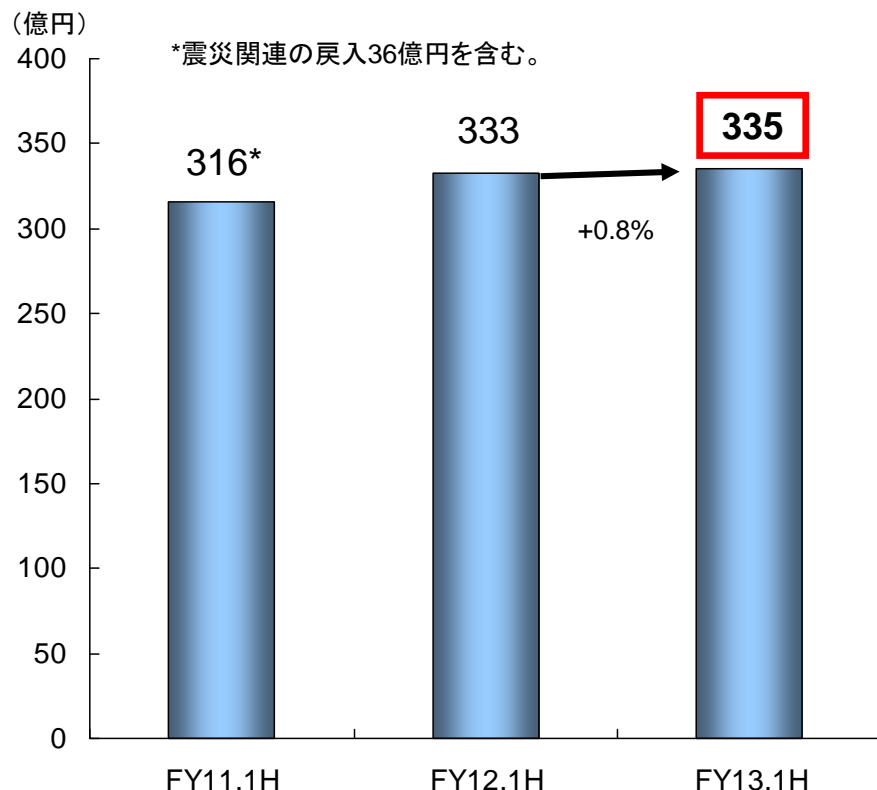
利息及び配当金等収入



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)⑦

基礎利益

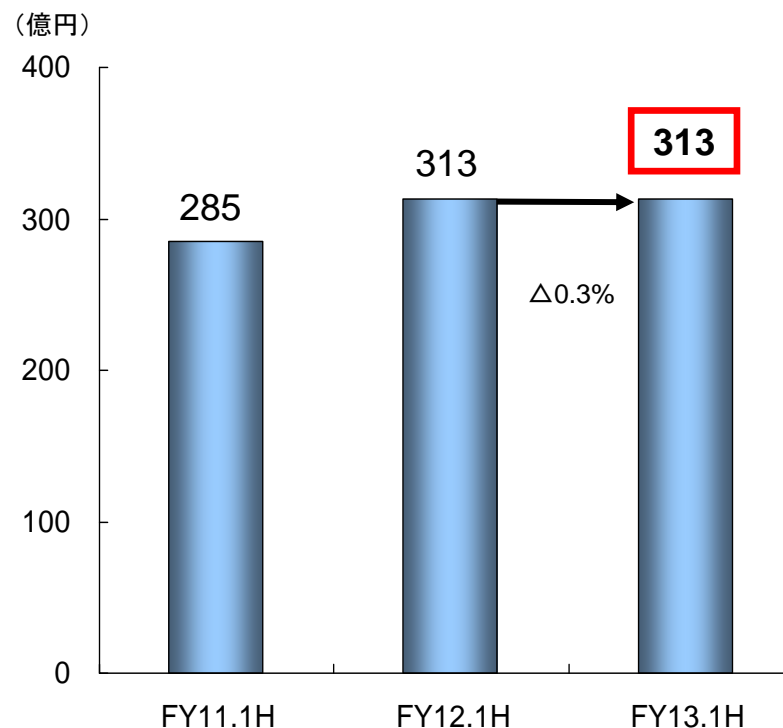


(ご参考) 基礎利益へのインパクト

	FY11.1H	FY12.1H	FY13.1H
逆ざや額 (△)	△19	△4	33
標準利率改定の影響	—	—	△60
変額保険の最低保証に係る一般勘定の責任準備金繰入額 (△)	△48	△40	△12

(単位: 億円)

経常利益



(ご参考) 基礎利益からの主な差異

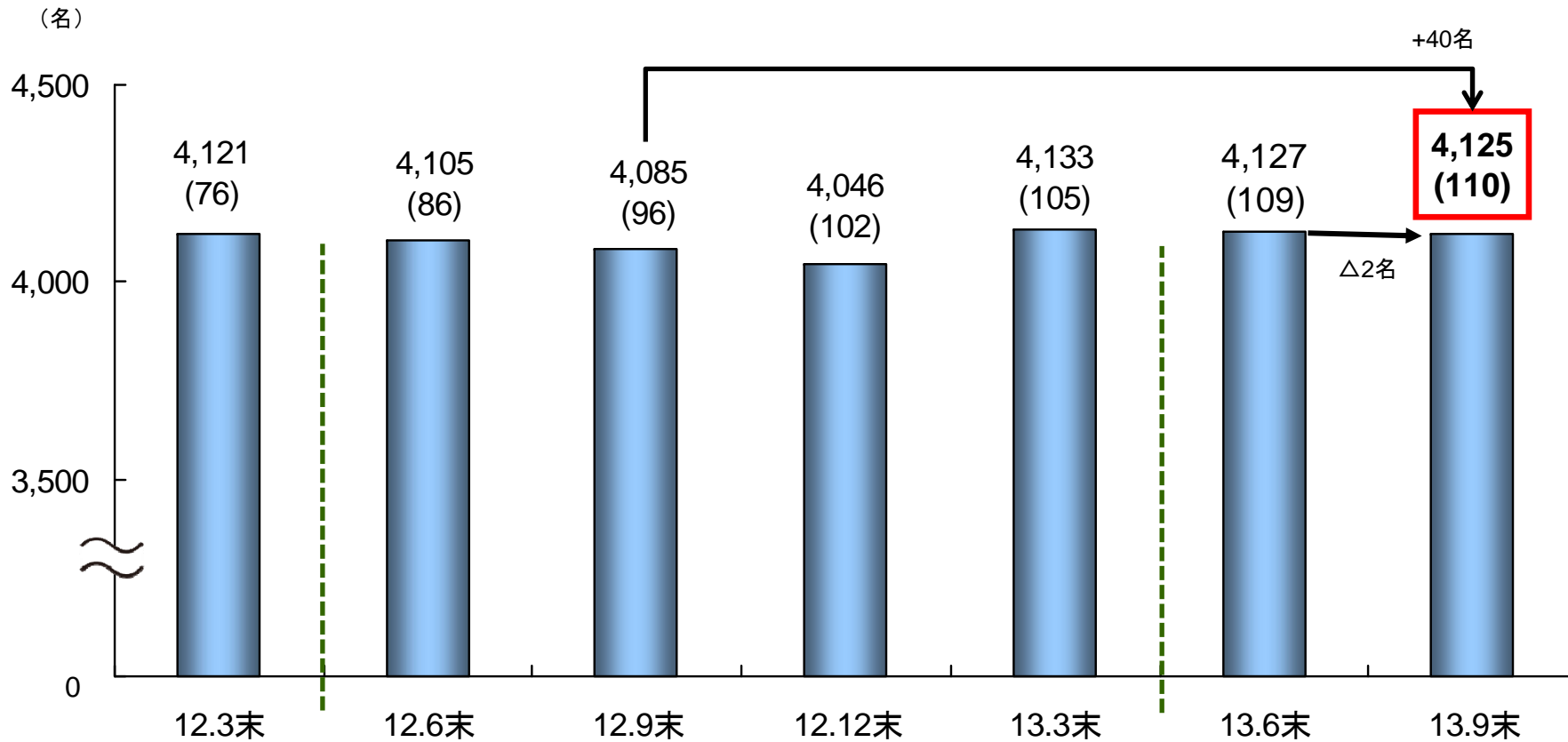
	FY11.1H	FY12.1H	FY13.1H
キャピタル損益	△11	1	△0
危険準備金繰入額 (△)	△17	△19	△21

(単位: 億円)

(注) 逆ざや額のプラスは順ざや額を表します。変額保険の最低保証に係る一般勘定の責任準備金、危険準備金のマイナスは繰入額を表します。 ※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)⑧

ライフプランナー在籍数



(注) ()は、嘱託ライフプランナー数と契約ライフプランナー数の合計で、内数です。
嘱託ライフプランナーおよび契約ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

一般勘定資産の内訳

(億円)	13.3末		13.9末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	45,610	84.4%	48,483	85.9%
株式	311	0.6%	360	0.6%
外国公社債	620	1.1%	696	1.2%
外国株式等	254	0.5%	263	0.5%
金銭の信託	3,061	5.7%	3,025	5.4%
約款貸付	1,450	2.7%	1,497	2.7%
不動産	703	1.3%	673	1.2%
現預金・コールローン	1,033	1.9%	454	0.8%
その他	977	1.8%	1,004	1.8%
合計	54,021	100.0%	56,459	100.0%

<資産運用状況>

金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて資産サイドの保有債券のデュレーションを長期化。

公社債：2013年度・・・超長期債購入継続



[債券のDuration]

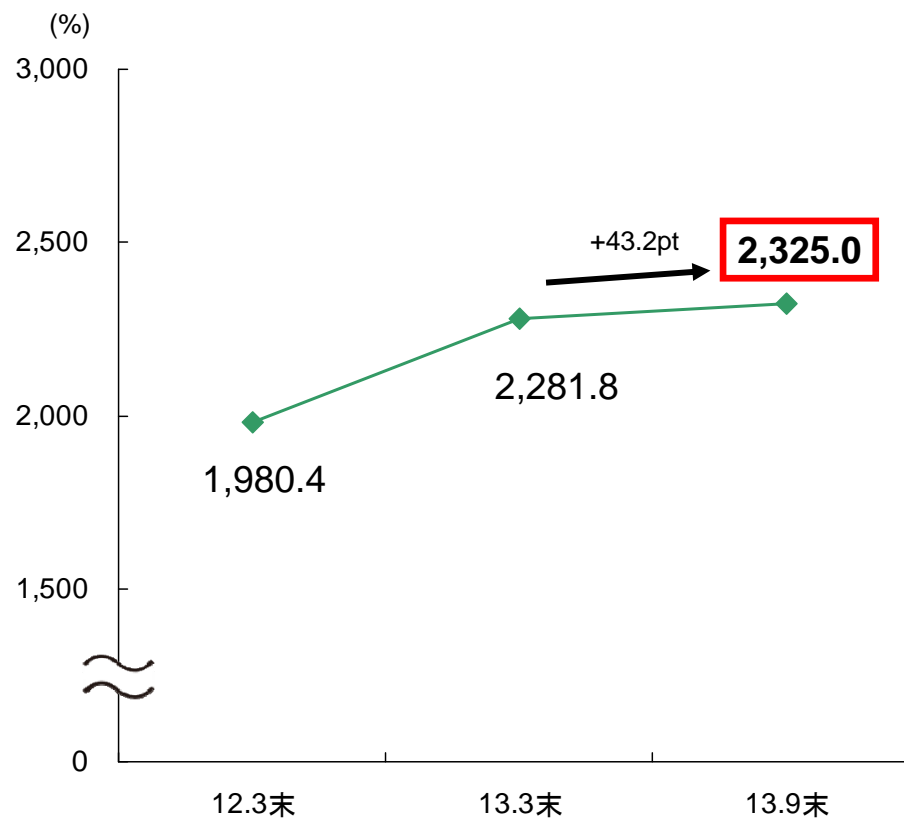
2012. 3末 19.2年
2013. 3末 19.9年
2013. 9末 19.7年

- 「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。
- 一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比
2013.9末・・・91.2% (2013.3末・・・90.1%)

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(単体)⑩

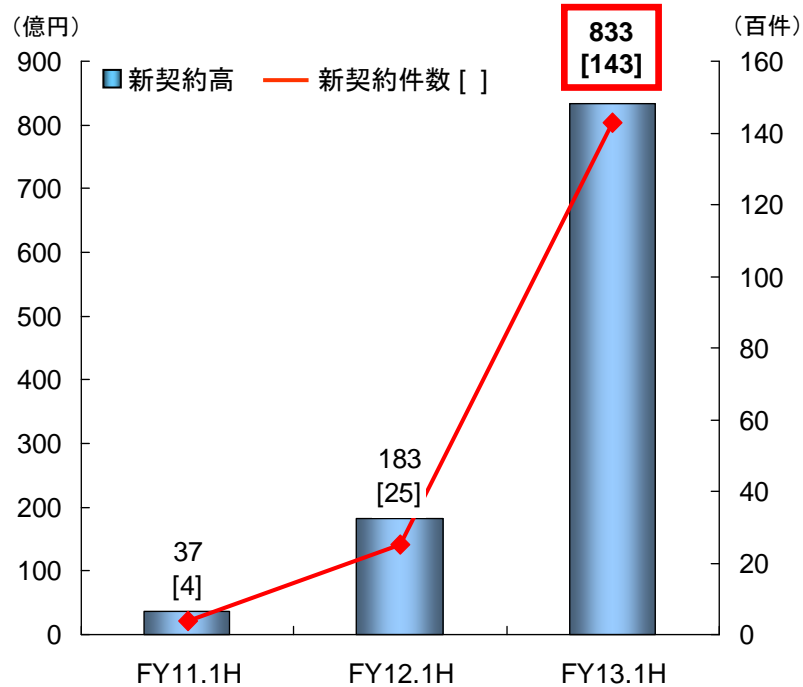
単体ソルベンシー・マージン比率



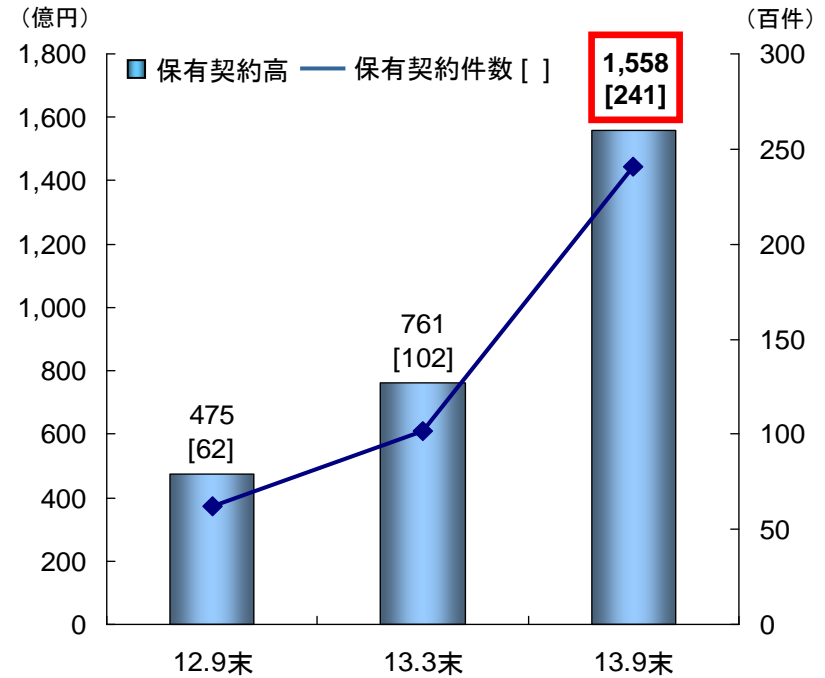
ソニーライフ・エイゴン生命の業績

*ソニーライフ・エイゴン生命は変額年金保険を販売しております。

新契約高・件数



保有契約高・件数



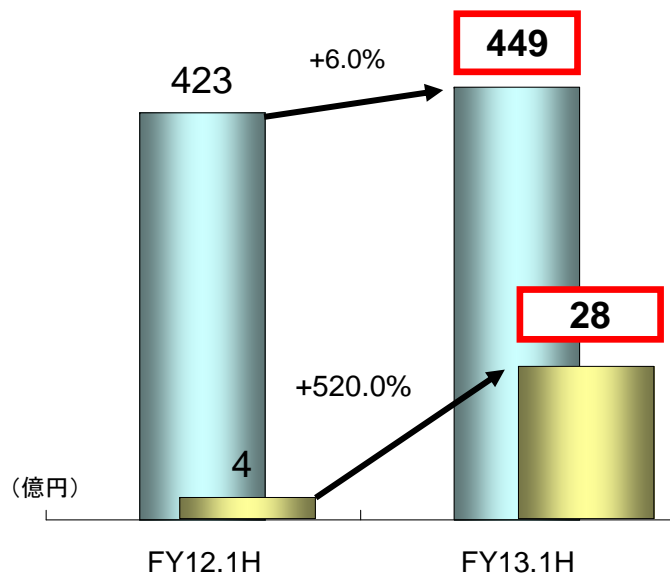
注)ソニーライフ・エイゴン生命は、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合併会社であり、持分法適用関連会社です。

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比		(ご参考)FY12通期
経常収益	183	859	+675	+368.4%	586
経常利益(△損失)	△ 11	△ 16	△ 5	—	△ 24
中間純利益(△損失)	△ 12	△ 17	△ 5	—	△ 25

※金額は億円未満切捨て、件数は百件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保 業績ハイライト

□ 経常収益 □ 経常利益



(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
経常収益	423	449	+25	+6.0%
保険引受収益	418	442	+24	+5.8%
資産運用収益	4	5	+1	+22.7%
経常費用	419	420	+1	+0.3%
保険引受費用	317	317	+0	+0.0%
資産運用費用	0	0	△0	△81.4%
営業費及び一般管理費	100	102	+1	+1.3%
経常利益	4	28	+24	+520.0%
中間純利益	2	18	+16	+669.8%

- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、経常収益は増加。
- ◆ 経常利益は、自動車保険の料率改定や新ノンフリート等級制度導入による事故率の低下などにより損害率が低下したことに加え、事業費率が低下したこともあり、増益。

(億円)	13.3末	13.9末	前年度末比	
責任準備金残高	706	746	+40	+5.8%
純資産額	199	218	+19	+9.7%
総資産額	1,274	1,344	+70	+5.5%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保 主要業績指標

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比
元受正味保険料	413	436	+5.6%
正味収入保険料	418	442	+5.8%
正味支払保険金	231	232	+0.7%
保険引受利益	0	23	—
正味損害率	62.0%	59.6%	△2.4pt
正味事業費率	25.7%	24.6%	△1.1pt
コンバインド・レシオ	87.7%	84.2%	△3.5pt

<主な増減要因>

◆ 主力の自動車保険を中心に増加。

◆ 正味損害率は、自動車保険の料率改定や新ノンフリート等級制度導入による事故率の低下などにより低下。

◆ 正味事業費率は、自動車の保険料増収に加え、契約獲得費用を適切にコントロールしたことから、低下。

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

	13.3末	13.9末	前年度末比	
保有契約件数	155万件	157万件	+2万件	+1.5%
単体 ソルベンシー・マージン比率	504.2%	547.2%	+43.0pt	

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY12.1H	FY13.1H	増減率
火 災	111	115	+3.5%
海 上	—	—	—
傷 害	3,895	4,124	+5.9%
自 動 車	37,293	39,391	+5.6%
自 賠 責	—	—	—
合計	41,300	43,632	+5.6%

正味収入保険料

(百万円)	FY12.1H	FY13.1H	増減率
火 災	73	82	+12.4%
海 上	74	68	△7.0%
傷 害	4,009	4,254	+6.1%
自 動 車	37,155	39,264	+5.7%
自 賠 責	532	608	+14.3%
合計	41,845	44,279	+5.8%

正味支払保険金

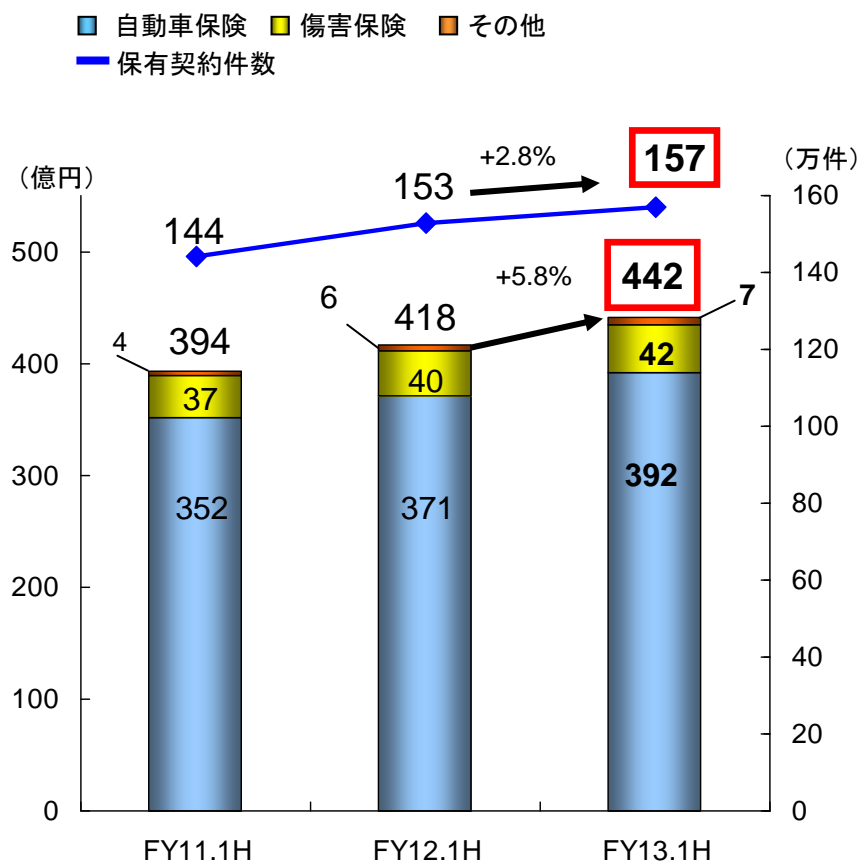
(百万円)	FY12.1H	FY13.1H	増減率
火 災	0	0	+1.3%
海 上	142	77	△45.8%
傷 害	941	1,010	7.2%
自 動 車	21,562	21,667	+0.5%
自 賠 責	489	544	+11.1%
合計	23,137	23,299	+0.7%

(注)「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シュア)が含まれる。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

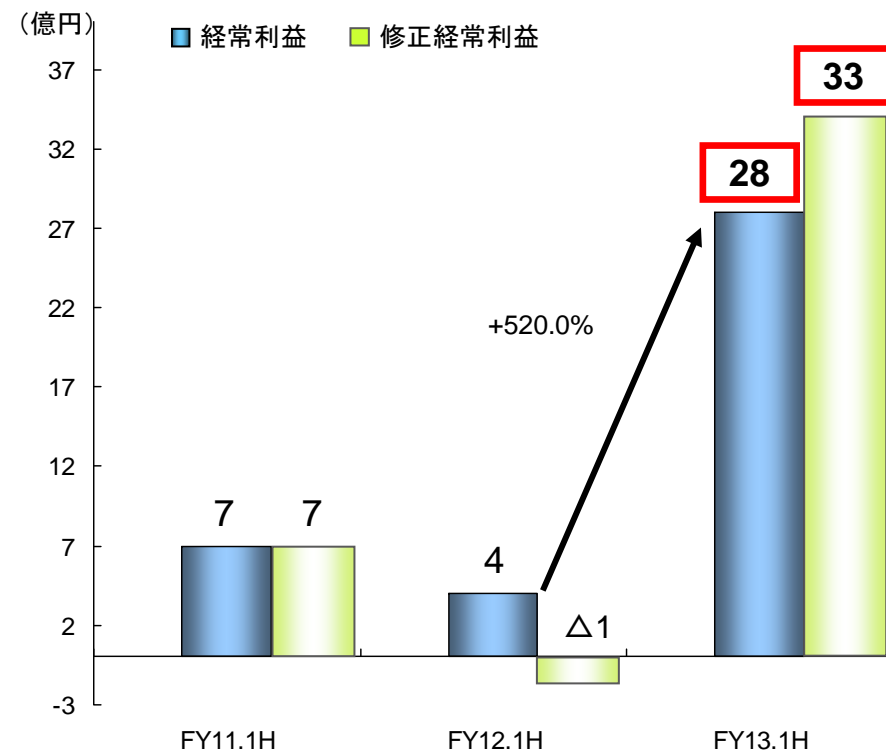
ソニー損保の業績①

正味収入保険料と保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

経常利益と修正経常利益



※修正経常利益＝経常利益－異常危険準備金ネット繰入額(Δ)

(ご参考) 異常危険準備金繰入状況

(単位: 億円)

	FY11.1H	FY12.1H	FY13.1H
異常危険準備金ネット繰入額 (Δ)	+0	+6	Δ4

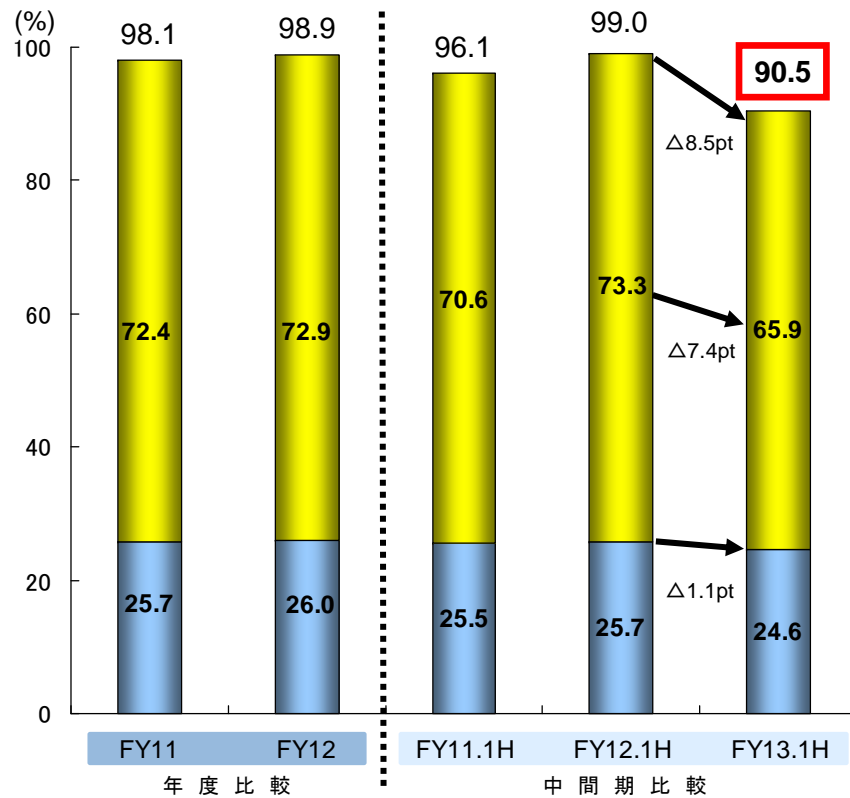
(注) 異常危険準備金ネット繰入額(Δ)のマイナスはネット繰入額を表します。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の業績②

E.I.損害率 + 正味事業費率

■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率

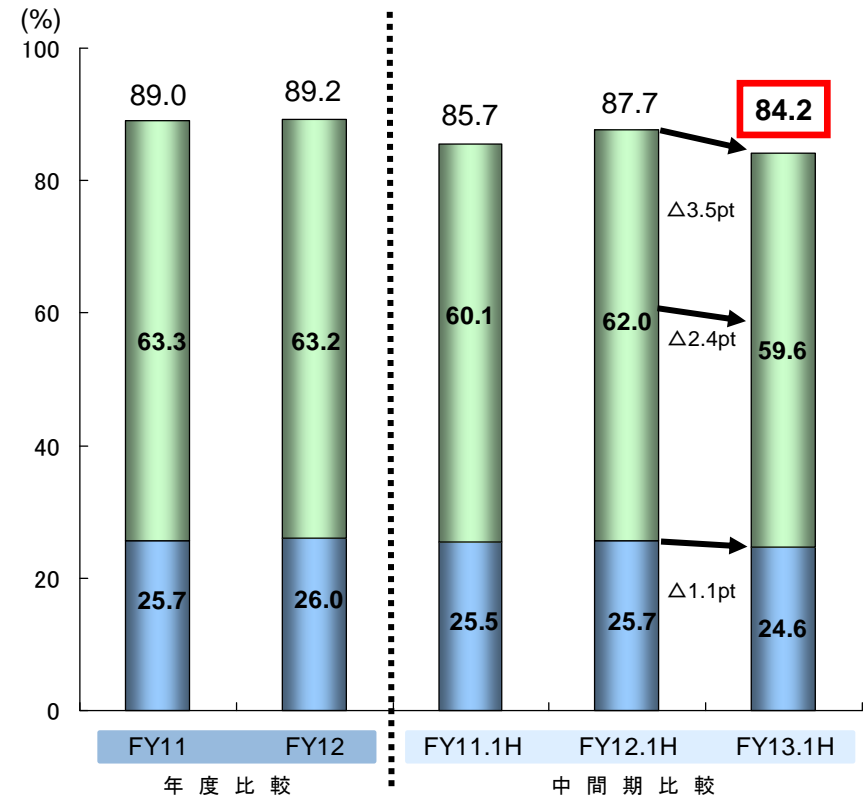


(注) E.I.損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金繰入額 + 損害調査費) ÷ 既経過保険料
[除く地震保険、自賠責保険]

正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

<参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)

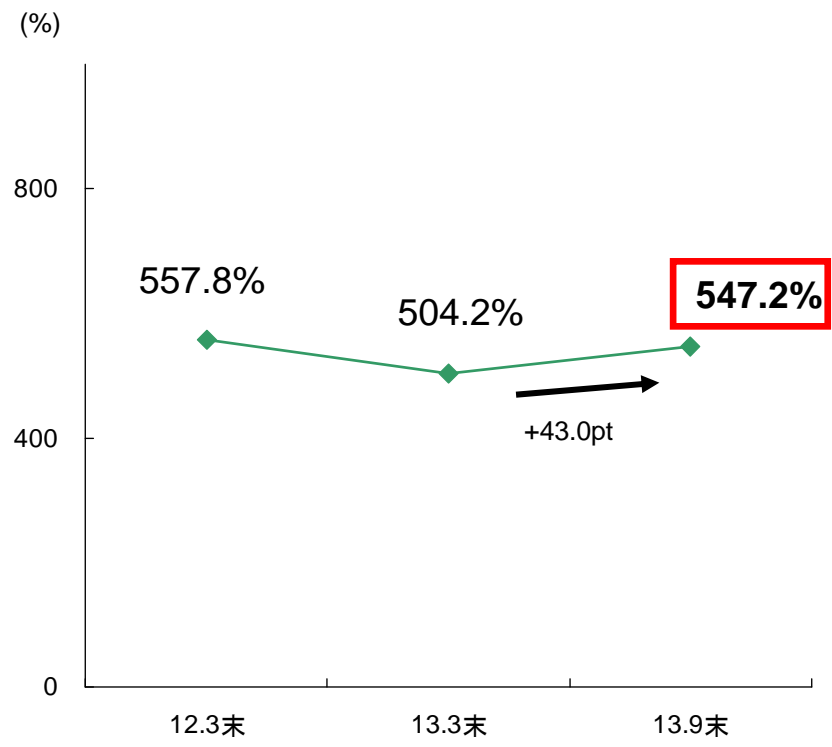
■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料

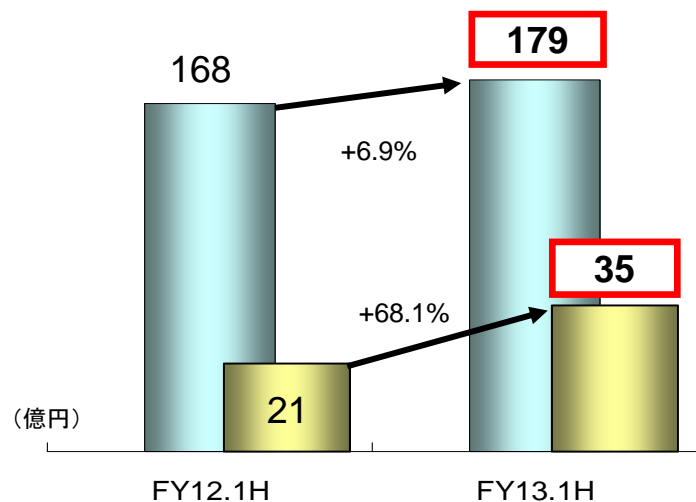
正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

単体ソルベンシー・マージン比率



ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)

■ 連結経常収益 ■ 連結経常利益



<連結>

◆顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したこと、および住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加したことから、増益。

<銀行単体>

◆業務粗利益・業務純益ともに増加。
 ・資金運用収支は、住宅ローンを中心とした堅調な貸出金利息の増加と資金調達費用の減少により増加。
 ・その他業務収支も、顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したことに加えて、債券関連取引等にかかる損益も改善し、増加。

<連結>

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
連結経常収益	168	179	+11	+6.9%
連結経常利益	21	35	+14	+68.1%
連結中間純利益	18	22	+3	+21.4%

<銀行単体>

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
経常収益	152	167	+15	+10.2%
業務粗利益	89	110	+20	+22.6%
資金運用収支	83	99	+15	+18.5%
役務取引等収支	0	△1	△1	—
その他業務収支	5	12	+6	+117.7%
営業経費	69	72	+3	+4.4%
業務純益	20	37	+17	+81.7%
経常利益	19	36	+17	+89.6%
中間純利益(△損失)	△5	23	+28	—

(億円)	13.3末	13.9末	前年度末比	
純資産額	678	703	+25	+3.8%
その他有価証券評価差額金	65	62	△2	△4.0%
総資産額	20,050	19,662	△388	△1.9%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①

<主な増減要因>

(億円)	12.9末	13.3末	13.9末	前年度末比	
預かり資産残高	19,215	19,743	19,307	△436	△2.2%
預金	18,193	18,574	18,130	△443	△2.4%
円預金	14,560	14,672	14,351	△321	△2.2%
外貨預金	3,633	3,902	3,779	△122	△3.1%
投資信託	1,021	1,169	1,176	+7	+0.6%
貸出金残高	8,986	9,702	10,095	+393	+4.1%
住宅ローン	8,029	8,603	8,996	+392	+4.6%
その他	956	1,098	1,099 ^{*1}	+0	+0.1%
口座数	91万件	92万件	94万件	+1万件	
不良債権比率 ^{*2} (金融再生法開示債権ベース)	0.44%	0.41%	0.39%	△0.02pt	
自己資本比率 (国内基準) ^{*3}	11.18%	11.98%	11.99%	+0.01pt	
Tier1 比率	9.30%	8.85%	9.14%	+0.29pt	

◆ 円預金は、リスクオンを背景とした魅力低下もあり、前年度末に比べて減少。

◆ 外貨預金は、為替相場の円安進行に伴う利益確定の売りによる円預金への振替えが進み、残高は減少。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の伸びにより、増加。

◆ 極めて低い不良債権比率を維持

*1 うち1,038億円は法人向け

*2 不良債権(金融再生法開示債権) / 総与信額

*3 29ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比	
業務粗利益	89	109	+20	+22.7%
資金収支*1 ①	85	91	+5	+6.8%
手数料等収支*2 ②	2	4	+2	+81.2%
その他収支*3	1	13	+12	—
コアベース業務粗利益 (A) =①+②	88	96	+8	+9.1%
営業経費等 ③	68	72	+3	+4.8%
コアベース業務純益 =(A)-③	19	24	+4	+24.2%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

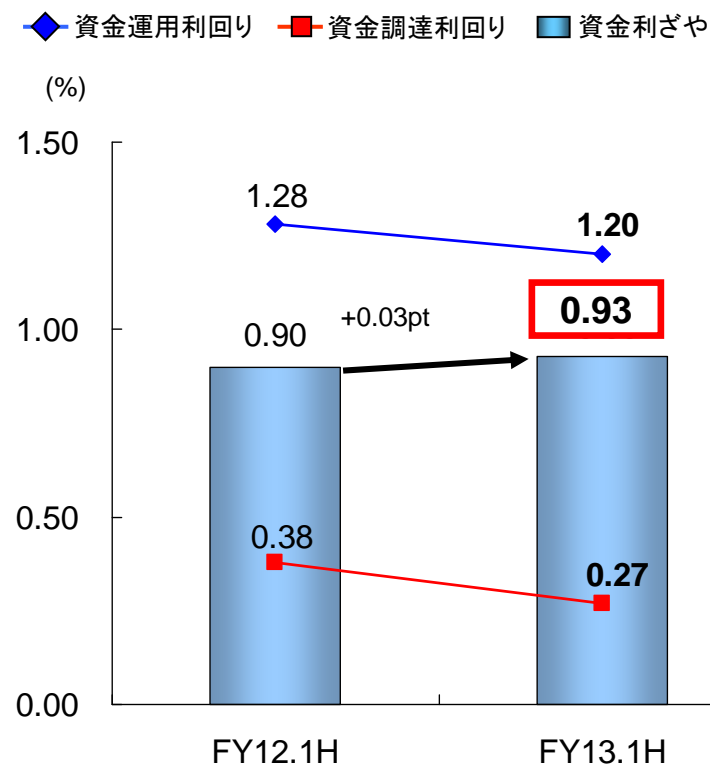
- *1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている
実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支 … 役務取引等収支+その他業務収支に計上されている
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支 …… その他業務収支から *1 と *2 の調整分を控除したもの
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

■ コアベース

社内管理ベースの その他収支(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移

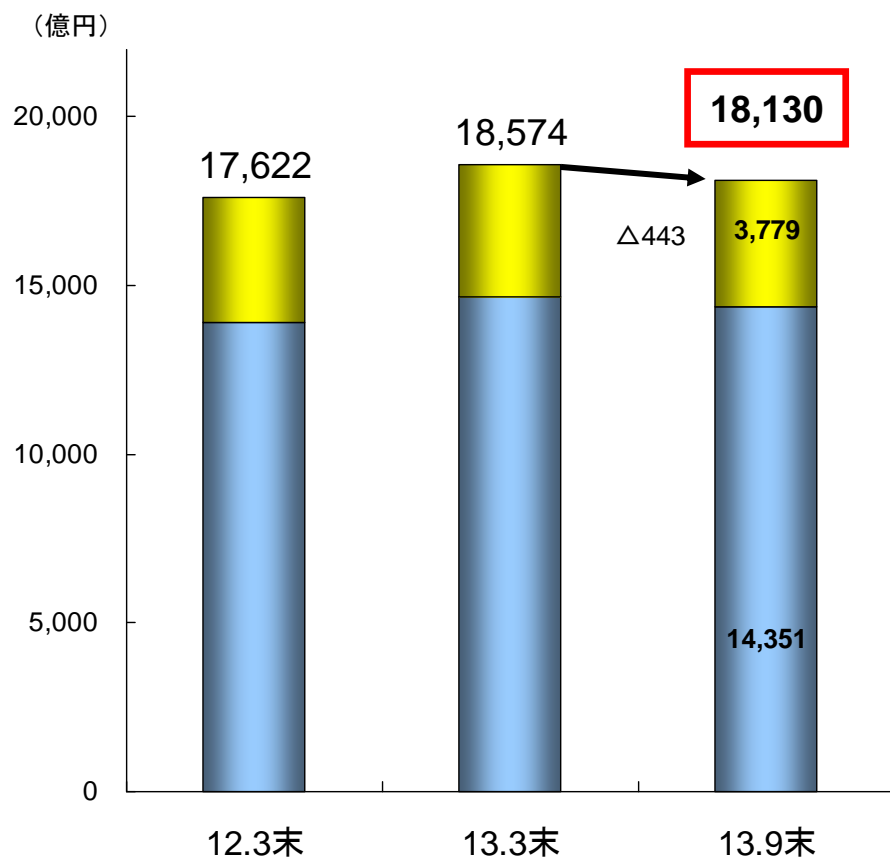


(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り

ソニー銀行の業績(単体)①

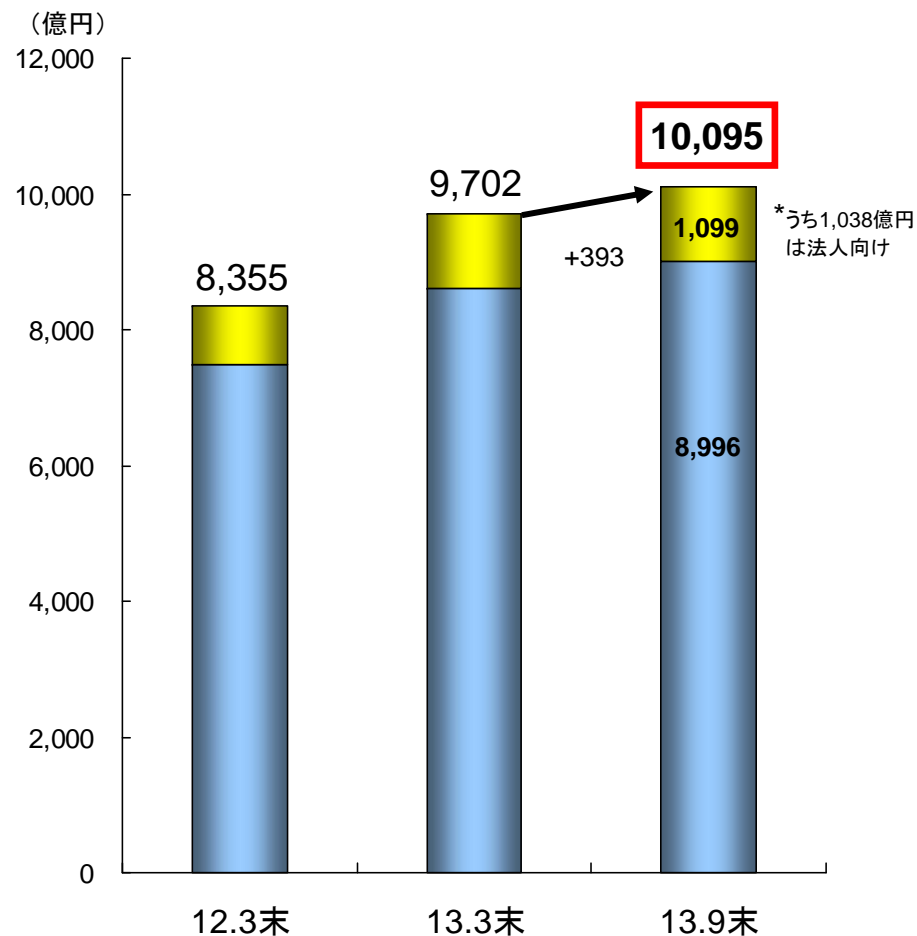
預金残高

■ 円預金 ■ 外貨預金



貸出金残高

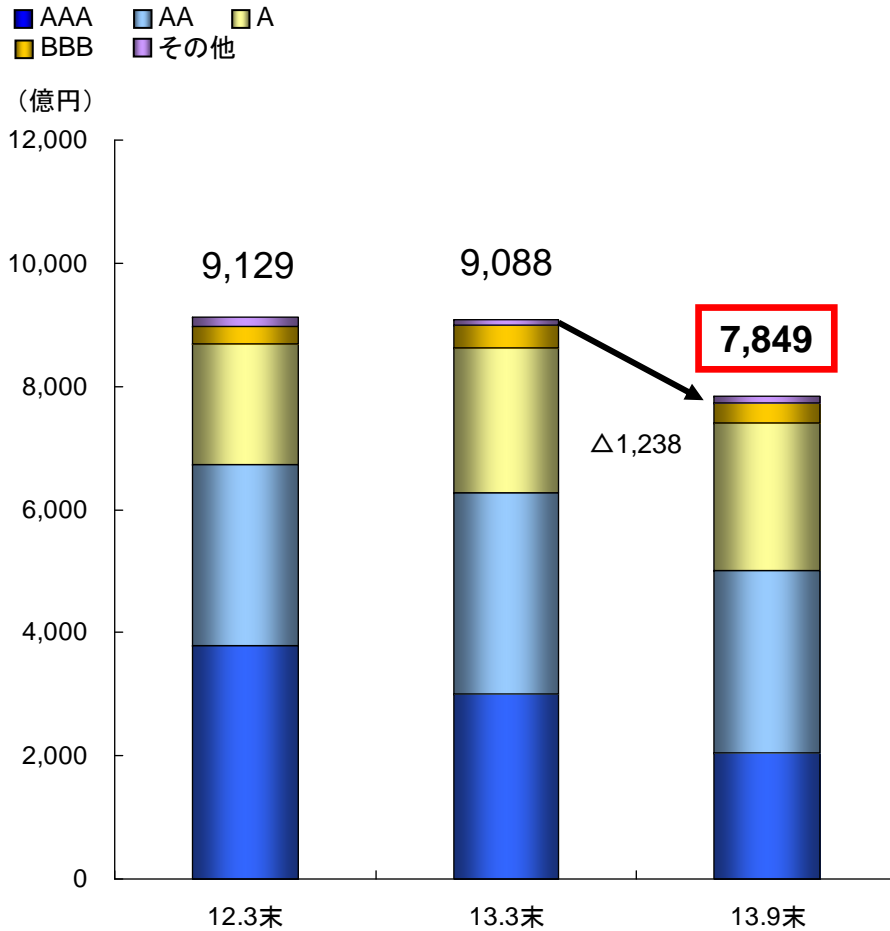
■ 住宅ローン ■ その他



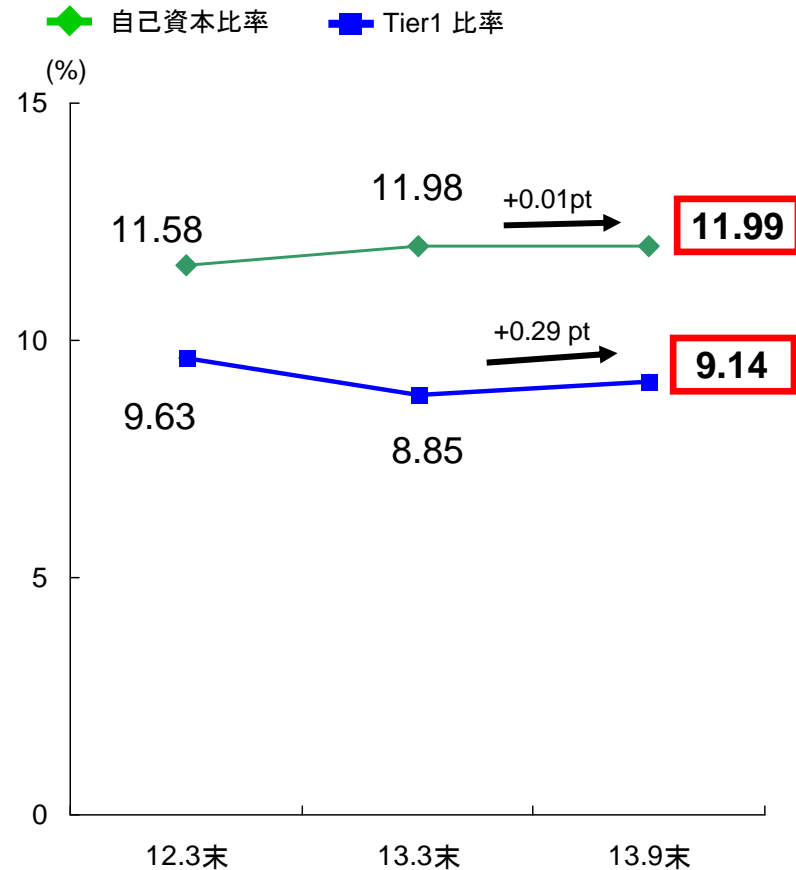
※金額は億円未満切捨てで表示

ソニー銀行の業績(単体)②

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注)平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。

※金額は億円未満切捨てで表示

2013年度連結業績予想

2013年度連結業績予想

**2013年度 業績予想は、損保、銀行事業で通期見通しを上方修正するも、
連結数値については2013年5月9日に公表した数値から変更なし。**

(億円)	FY2012 (通期実績)	FY2013 (通期予想)	増減率
連結経常収益	12,590	12,220	△2.9%
うち生命保険事業	11,423	10,999	△3.7%
うち損害保険事業	847	885⇒895	+4.5%⇒+5.7%
うち銀行事業	343	340⇒349	△0.9%⇒+1.7%
連結経常利益	792	690	△12.9%
うち生命保険事業	727	614	△15.5%
うち損害保険事業	23	30⇒38	+30.4%⇒+60.2%
うち銀行事業	39	43⇒52	+10.3%⇒+31.5%
連結当期純利益	450	370	△17.9%

■生命保険事業

経常収益、経常利益ともに、当上半期においてほぼ想定通りに推移したことから、通期見通しは変更しません。

■損害保険事業

経常収益は、当上半期において主力の自動車保険の収入が想定を上回り、この基調が継続することが見込まれるため、通期見通しを引き上げました。

経常利益は、上記の増収に加え、損害率が期初の想定より大幅に改善したことから、通期見通しを引き上げました。

■銀行事業

経常収益は、当上半期実績において外国為替売買益などの外貨関連取引に係る収益が期初の想定を上回ったため、通期見通しを引き上げました。

経常利益は、上記の増収に加え、債券関連取引等による損益が改善し、当上半期の実績が期初の想定を上回ったため、通期見通しを引き上げました。

なお、ソニー生命の価格変動準備金に関して、当年度は従来どおり積立基準を上回る積み立てを継続しますが、来年度以降は積立基準に基づく積み立てへ変更する予定です。

(注) 金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示。

ソニー生命の2013年9月末MCEV および経済価値ベースのリスク量

ソニー生命の2013年9月末MCEV

(億円)	13.3末	13.6末	13.9末	増減 対13.3末	増減 対13.6末
MCEV	10,647	11,499	11,582	+935	+82
修正純資産	7,708	5,725	6,821	△887	+1,096
保有契約価値	2,939	5,774	4,761	+1,822	△1,013

(注) (1) 2013年6月末、9月末の保有契約をベースとして、解約・失効率と経済前提をアップデート。

(2) 2013年6月末、9月末の計算は、一部簡易な計算を実施。

(億円)	13.3末	13.6末	13.9末
新契約価値	416(12カ月)	171(3カ月)	297(6カ月)
新契約マージン	3.5%	6.5%	6.3%

(注)新契約マージンは「新契約価値 / 収入保険料現価」です。

- ◆ 2013年9月末のMCEVは、同年6月末に比べて超長期金利が低下したものの、新契約獲得などにより、82億円増加。
- ◆ 2013年3月末からの新契約マージンの上昇は、主に超長期金利上昇と、2013年4月からの標準利率改定に伴い実施した保険料率改定の影響によるものです。2013年6月末からの下落は、主に超長期金利低下によるものです。

*国債利回りの推移については、参考情報P.43をご覧ください。

※ 本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

ソニー生命の2013年9月末経済価値ベースのリスク量

(億円)	13.3末	13.6末	13.9末
保険リスク	6,056	5,972	6,104
市場関連リスク	2,899	2,345	2,601
うち金利リスク*	2,342	1,754	2,010
オペレーショナルリスク	260	250	252
カウンターパーティリスク	23	17	15
分散効果	△2,625	△2,413	△2,537
経済価値ベースのリスク量	6,613	6,170	6,435

(億円)	13.3末	13.6末	13.9末
MCEV	10,647	11,499	11,582

*ただし、市場関連リスク内での分散効果考慮前

◆ 市場関連リスクを抑制することで、資本の十分性を確保。

(注) 経済価値ベースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場関連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。

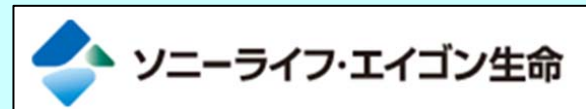
(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシー II (QIS5)の標準モデルを参考にした内部モデルを採用しています。

※ 本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

参考情報

その他トピックス①

ソニーライフ・エイゴン生命の概要



営業開始： 2009年12月1日
資本金： 220億円(資本準備金110億円を含む)
株主： ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
取扱商品： 変額個人年金保険
販売チャネル： ライフプランナー、および銀行等(計13社) * 2013年11月15日現在

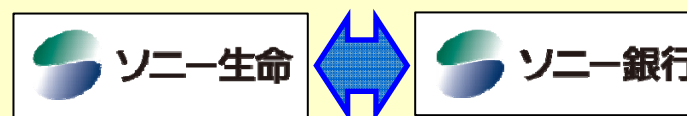
SA Reinsurance の概要

設立日： 2009年10月29日
資本金： 80億円
株主： ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
事業内容： 再保険業

注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、持分法適用関連会社です。

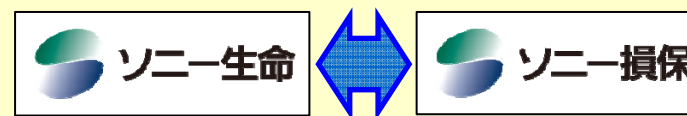
ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

- 2013年9月末の住宅ローン残高の25%
2013年度中間期の住宅ローン新規融資実行金額の20%
※銀行代理業務取扱い開始： 2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

- 2013年度中間期の新規自動車保険契約件数の約5%
※自動車保険取扱い開始： 2001年5月



※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

その他トピックス②

<2013年度第2四半期以降の主な取組み>

- 2013年7月25日 **生保** SA Reinsuranceが、資本金を50億円から80億円に増資*
- 2013年 8月1日 **損保** ご契約者優待サービスの拡充(ご契約が2年目以降となるお客様を対象)
- 2013年 8月12日 **当社** 2013年度 配当予想の上方修正を発表
- 2013年 8月30日 **生保** ソニーライフ・エイゴン生命が、資本金等(資本準備金を含む)を200億円から220億円に増資*
- 2013年10月28日 **銀行** 新サービス「外貨預金の積立購入」の取り扱い開始
- 2013年10月31日 **銀行** シドニー駐在員事務所を閉鎖
- 2013年11月11日 **当社** ソニーフィナンシャルグループ 介護事業に参入
(シニア・エンタープライズ株式会社の完全子会社化)
- 2013年11月15日 **生保** 【新商品】学資保険(無配当)の発売を発表 ※2014年1月2日より発売予定

注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、当該増資部分も折半出資しております。

ソニー生命の保有する有価証券(一般勘定)

有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	12.3末			13.3末			13.9末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	34,048	35,606	1,558	38,742	44,259	5,517	41,290	45,480	4,190
その他有価証券	8,951	9,561	609	9,559	10,792	1,232	10,090	11,196	1,105
公社債	8,491	9,026	534	9,253	10,369	1,116	9,749	10,724	974
株式	291	349	58	147	209	62	162	249	87
外国証券	153	167	13	144	186	42	163	197	34
その他の証券	14	17	2	14	26	11	14	24	9
合 計	42,999	45,168	2,168	48,302	55,052	6,750	51,380	56,677	5,296

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

12.3末		13.3末		13.9末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
—	—	—	—	—	—

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金銭の信託」に含まれているものも含む。

※金額は億円未満切捨てで表示

ソニー生命の利配収入内訳

(百万円)

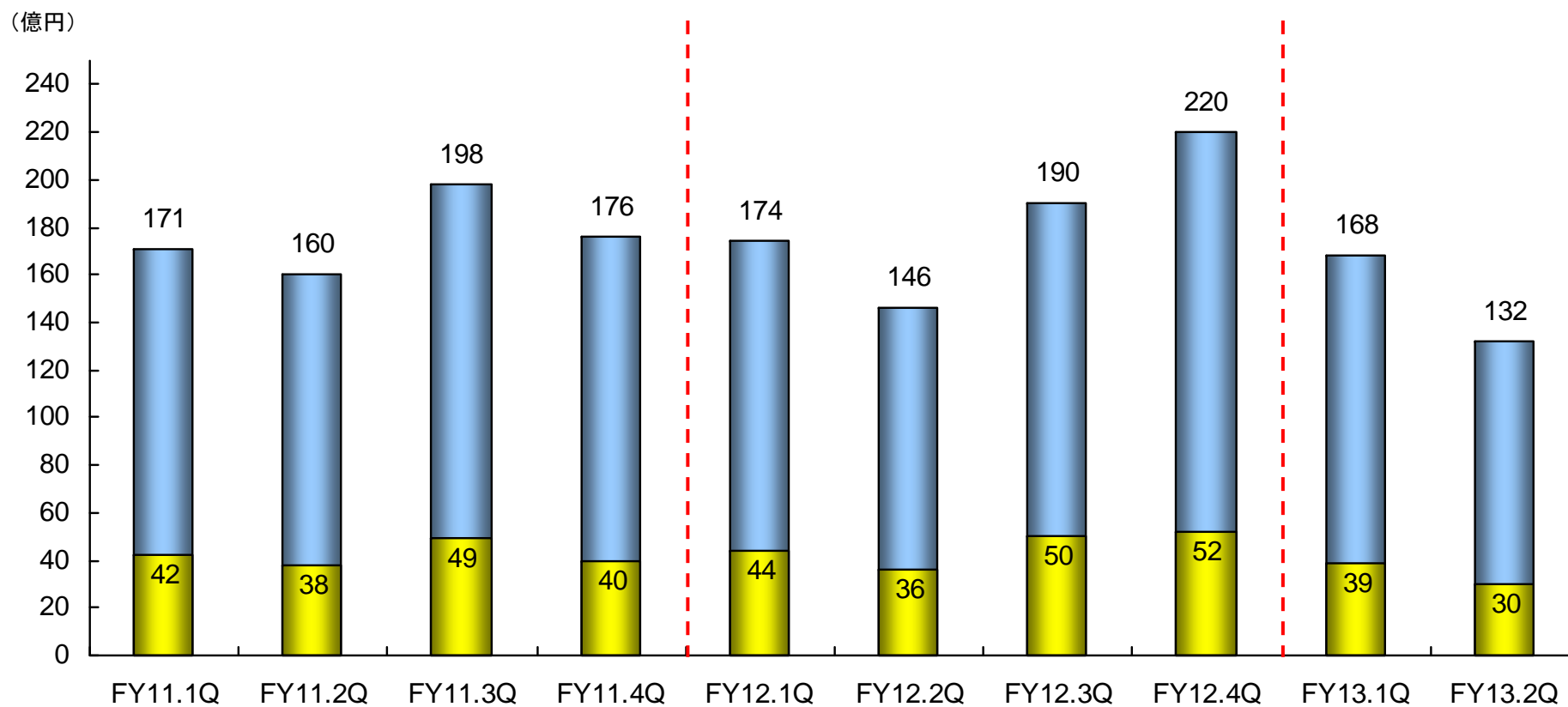
	FY12.1H	FY13.1H	前年同期比
現預金	0	0	△52.8%
公社債	42,353	47,874	+13.0%
株式	295	198	△32.9%
外国証券	1,255	2,868	+128.5%
その他の証券	143	47	△67.2%
貸付	2,705	2,820	+4.2%
不動産	5,431	5,145	△5.3%
その他	14	17	+20.5%
合計	52,199	58,971	+13.0%

※金額は百万円未満切捨て

ソニー生命の新契約年換算保険料の四半期推移

新契約年換算保険料の四半期(3ヶ月)ごとの推移

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



※金額は億円未満切捨てで表示

ソニー生命の経済価値ベースのリスクの測定方法①

■ 市場関連リスク

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
金利リスク 右のShockを与えた時の、 経済価値純資産の変動 以下同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金利を上昇・下落させ、通貨ごとに損失が大きい方を採用。 ・ 上昇率・下落率は、通貨・年限ごとに異なる (例: 円10年 下落率 Δ49%) 但し、金利0%を下限とし最低下落幅は1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金利を上昇・下落させ、損失が大きい方を採用。 ・ 上昇率・下落率は、年限ごとに異なる (例: 円10年 下落率 Δ31%) 但し、金利0%を下限とし最低下落幅は1%
株式リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上場株式・REIT 45% ・ 非上場株式 55% ・ その他証券 70% ・ 子会社・関連会社・政策投資 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Global 30% ・ Others 40% (注2)
不動産投資リスク	不動産 25%	同左
信用リスク	時価 × 格付毎のリスク係数 × 修正デュレーション 尚、修正デュレーションには格付毎のキャップとフロアーがある。 (例) A格: リスク係数(1.4%)、キャップ(23)、フロアー(1)	同左
為替リスク	不利な方向へ30%変化	不利な方向へ25%変化

(注1) 2013年9月末現在 主要な項目。市場関連リスクについては、QIS5の手法を参考にしているが、日本市場の過去データへの適用・最新データの取り込み等を行っているため、QIS5との相違が生じる。

(注2) 標準リスク係数はGlobal:39%/Other:49%。symmetric adjustment(過去一定期間の株価インデックスの平均値を基準として±10%以内で加える調整)が適用され、QIS5試行時点(2009年12月末)は30%/40%。

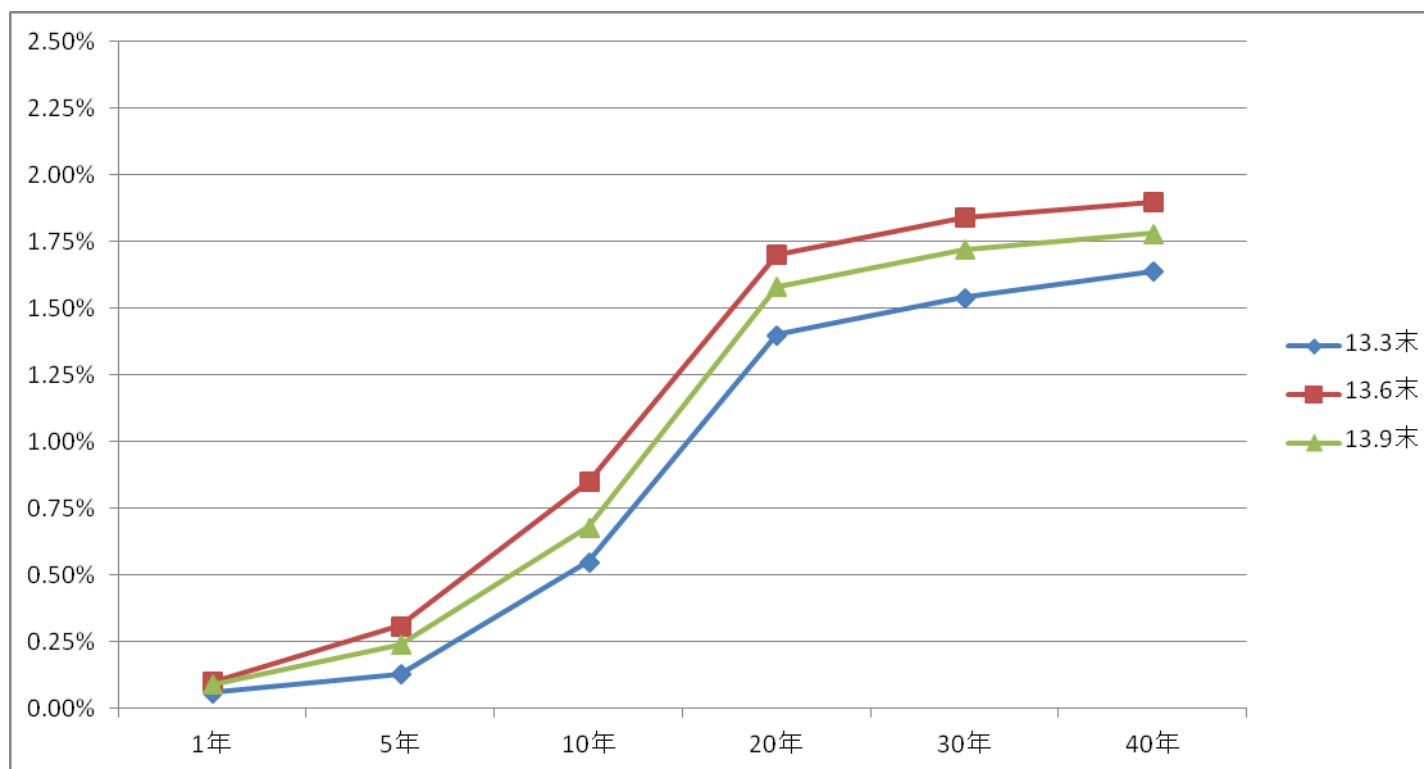
ソニー生命の経済価値ベースのリスクの測定方法②

■ 保険リスク

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
死亡リスク	各経過年の死亡率が15%増加	同左
生存リスク	各経過年の死亡率が20%減少	同左
解約リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・各経過年の解約率が50%増加 ・各経過年の解約率が50%減少 ・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約 これらの最大値(注)	<ul style="list-style-type: none"> ・Life区分50%増加、Health区分20%増加 ・Life区分50%減少、Health区分20%減少 ・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%(団体年金等は70%)が、直ちに解約 これらの最大値
事業費リスク	各経過年の事業費が10%増加 インフレ率が1%上昇	同左
疾病リスク	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加 回復率が20%減少

(注) ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施

Appendix: 国債利回り



国債利回り	13.3末	13.6末	13.9末	13.3末 →13.9末	13.6末 →13.9末
1年	0.06%	0.10%	0.09%	0.03%	△0.01%
5年	0.13%	0.31%	0.24%	0.11%	△0.07%
10年	0.55%	0.85%	0.68%	0.14%	△0.16%
20年	1.40%	1.70%	1.58%	0.18%	△0.13%
30年	1.54%	1.84%	1.72%	0.17%	△0.13%
40年	1.64%	1.90%	1.78%	0.15%	△0.12%



お問い合わせ先：
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL: 03-5785-1074